

「加治木小学校の加治木くも合戦伝承活動の取組」

1 学校名

始良市立加治木小学校

2 学年・人数

5年生（計50人）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

令和元年5月～7月 総合的な学習の時間（教室）

（2）発表の日時・場所

令和元年6月17日（月） 総合的な学習の時間（本校体育館）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

（1）名称

加治木くも合戦（かじきくもがっせん）

（2）由来

加治木町くも合戦保存会によって受け継がれている400年以上の歴史を誇る伝統的な行事で，島津義弘公が文禄・慶長の役に参戦した際に，兵士の士気を高めるためにこがねぐもを集めて戦わせたのが始まりとされている。

（3）構成等

参加するこがねぐもは主に薩摩半島・大隅半島の南部で採集され，参加者によって飼育される。対戦は，ヒモシと呼ばれる長さ45～60cm程の横棒の上で2匹のこがねぐもの雌どうしによって行われる。対戦は行事によって取り仕切られ，相手の尻に噛みついたり，相手を棒から落としたりすると軍配が上がる。

5 保存会や地域との連携の具体

校内くも合戦に向けた学習を開始するにあたり，くも合戦保存会の方をゲストティーチャーとして招き，くも合戦についての歴史や取組内容等について説明をしていただきながら学習を行った。

加治木町くも合戦1週間前に，くも合戦保存会の企画によるバスでの大隅半島南部クモ採集に参加し，採集方法や飼育方法を学びながら，校内くも合戦に参加させるクモを採集した。

校内くも合戦では，実際のくも合戦で使用するヒモシ等の道具や法被などを準備していただき，予選の補助や決勝戦の行事もしていただいた。

校内くも合戦で対戦したくもを，くも合戦保存会の方に委託し，もとの生息地に戻した。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

くも合戦の始まりについて，インターネットや文献を使って詳しく調べ，くも合戦に関係する島津義弘公から視野を広げ，郷土の先人や鹿児島県の歴史について，鹿児島ジュニア検定と関係づけながら深く学べるようにした。

400年以上くも合戦を支えてきた人々の願いや苦労について話し合い，自分の身近に素晴らしい文化財が引き継がれていることや，これから文化財を伝承していくことの大切さについて学べるようにした。

昨年までの校内での放し飼いかから，1匹ずつネットに入れた餌付けや観察がしやすい環境へと変更し，くもを身近に感じられるようにした。

校内くも合戦を，より加治木町くも合戦に近づけるために，参加や見学を推奨することで，実際に見聞きした本物を伝えられる環境を設定した。

7 取組の様子



くも合戦当日は，5年生だけでなく，低学年の児童も予選の様子を見学し，次年度以降へと引き継いでいく。

- 出場するくもを管理する係の子供【左】
- 保存会の補助による子供主体のくも合戦【中】
- 保存会の行事による本格的な決勝戦【右上】
- 子供の進行による主体的な活動の充実【右下】

8 参加児童生徒の感想

- ・ 最後にくもを保存会の方に渡したが，本当はもっと触れ合いたかった。生き物を大切にしていきたいと思った。くも合戦をもっと受け継いで欲しい。
- ・ 400年も続いているくも合戦，これからも興味を持ち続けていきたいと思う。そして，これからも続けて欲しい。
- ・ 5年生だけがやっているのでも，4年生も6年生もみんなであれば楽しいんじゃないかと思う。去年くもを見て，くもはあまり好きではなかったけど，自分たちでえさや水やりなど世話をしていくたびにだんだん嫌いではなくなった。これからはくもに関わることがあれば，また育ててみたいと思う。
- ・ 校内くも合戦は，開校当初からやっていると聞いたので，この伝統行事をなくしてほしくない。